

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-269548

⑪ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)11月24日

H 04 M 11/00
G 06 F 3/16
H 04 M 9/02

3 0 2

8020-5K
7341-5B
8426-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 パソコンボイスメールシステム

⑮ 特 願 昭61-114015

⑯ 出 願 昭61(1986)5月19日

⑰ 発 明 者 佐 藤 了 一 郎 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キャノン株式会社内
 ⑱ 出 願 人 キャノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 ⑲ 代 理 人 弁理士 丸 島 儀 一

明 細 書

1. 発明の名称

パソコンボイスメールシステム

2. 特許請求の範囲

データ処理のためのパーソナルコンピュータ、音声入出力のための電話機、音声をデジタル相互変換する変換手段を有してLAN対応のワークステーションを構成することを特徴とするパソコンボイスメールシステム。

3. 発明の詳細な説明

本発明はLANの端末としてのパーソナルコンピュータに関する。

従来、LANにおけるメッセージのやりとりは文字でのやりとりに限定されていた。

本発明は、従来の文字だけのやりとりに限定されていた欠点を除去し、音声によるメッセージ交換を可能にするものである。

更に音声メッセージを符号化蓄積し所望に応じてパソコンデータと切替伝送するものである。

更にパソコンデータを蓄積する記憶手段にデー

タと音声メッセージとを格納し効率の良い管理をするものである。

更に音声データを認識して文書データとし、パソコンデータの画面表示器にて切替表示せしめるものである。

更にパソコンデータと音声による文書データとを一画面中に合成して表示せしめるものである。

更にその合成データを1ページの文書データとして構成し、ページ伝送又はページプリントせしめるものである。

第1図は本発明を採用したパソコンボイスメールシステムの外觀図である。第2図は本システムの要部構成を示す模式図であり、第3図は本システムのフローチャートである。第2図、第3図を参照して本システムにおける動作につき詳細に説明する。第3図のフローチャートはCPU、ROM他処理部に関するプログラム手順である。

第3図のステップS1において第2図の符号2で示される電話機より伝えたいメッセージを音声

により入力する。次のステップS2において、入力する音声を変換し、第2図の符号11で示される自ステーションの外部記憶装置にファイリングする。次にステップS3において、ファイリング後、第2図の符号14で示される同一LAN内の相手のステーションへメッセージのあることを伝える。次にステップS4において、相手から送信しても良いという信号が来るまで待ち合せ処理をする。次にステップS5においてステップS2でファイリングした音声のメッセージデータを相手へ送信する。次のステップS6では受けたメッセージデータを第2図の符号7で示されるRAMへ一時貯え、順次第2図の符号1で示されるコンバータによりデジタル・アナログ変換を行いながら次のステップS7においてアナログ化した音声のメッセージを第2図の符号2で示される電話機より情報を聞き出すことができる。

尚、記憶装置11として、フロッピーディスク、ハードディスク等の不揮発のものがあるが、

し合成せしめる。

このRAMの合成データはCRTのビデオRAMに転送され、1ページ画面に表示される(S13)。これは別途の送信指令により1ページ伝送される。又ページプリントされる。尚ページ伝送、ページプリントとは1ページの間、データの流が停止することなく伝送、プリントされるもので、例えばA41ページのシートに合成データがプリント再生される。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明によるパソコンによるボイスメールシステムの外觀図、

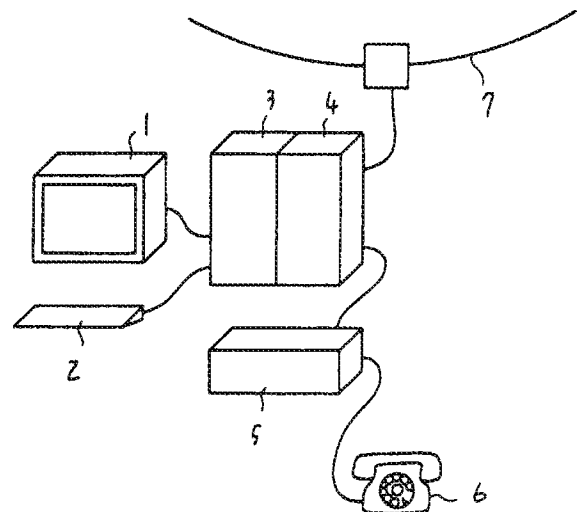
第2図は本システムの要部構成を示す模式図、

第3図は本システムにおける動作のフローチャートである。

この記憶装置は本来CPU5によるパソコンデータ処理によるデータ中、キーボードにより入力したデータに基づく文書データを格納するものである。従ってこの同じハードディスクに、音声量子化データを格納する場合と上記文書データを格納する場合とで各々識別コードを形成し、ディスクの管理領域に各々格納する。この識別コードは、データ種別とディスク中の各々に対応するアドレスデータである。この見出しデータの入力により所望のデータを選択してプリント又は伝送する。

即ちS8にて文書読出指令の入力があったかを判定し、入力時ディスク11から文書データのみを読出して伝送する(S9)。又、変換指令があると(S10)、ディスク中の音声を文書データに変換する(S11)。これは周知の音声認識による。次にパソコンによる文書データとの合成指令があると(S12)、パソコンによる文書データD₁と音声認識によるデータD₂とを順次ディスクから読出してRAMの所望領域に展開

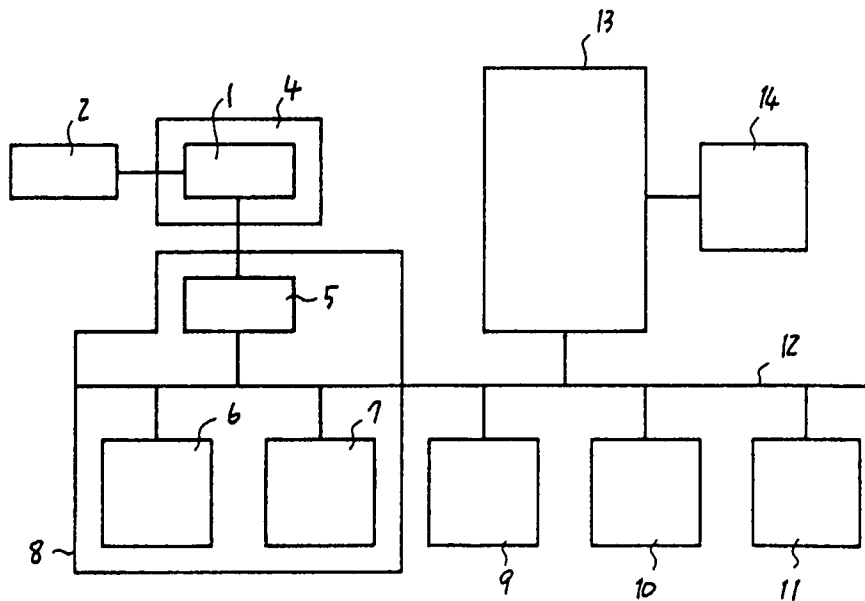
第1図



出願人 キヤノン株式会社
代理人 丸島 儀



第 2 図



第 3 図

